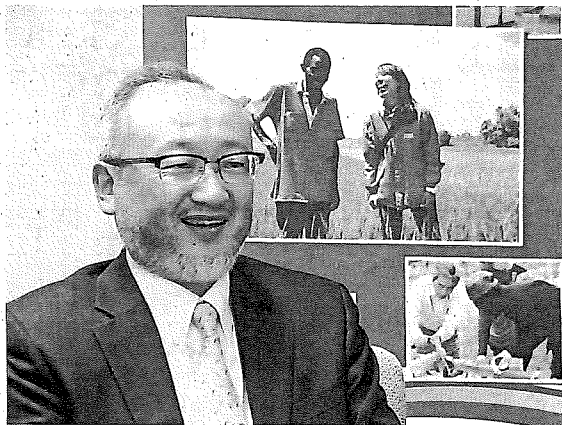


ひと 2019

JICA北海道の道産子所長

さいとう あきお  
齊藤 顕生さん



前任地はブラジル。4月、地球の反対側から故郷の札幌へ戻った。途上国などの研修生を受け入れる国際協力機構(JICA)北海道センター所長。「道民には道外から来た人を温かく迎える気質がある。そんな北海道だからこそ、外国の人を積極的に受け入れながら成長していけるはず」と話す。

札幌西高出身で小樽商大卒業後、1989年に東京銀行(当時)に入行。92〜95年にブラジルの現地法人へ派遣された。2

001年に国際協力銀行に移り、08年に所属する政府開発援助(ODA)の部門がJICAに統合された。インドとトルコにも駐在し、今春まで2年間はJICAブラジル事務所長。宗教も文化も違う多様な社会を見ることができた」と振り返る。

「第一のふるさと」と呼ぶブラジルは人口の約1%が日系人で、札幌の人口と同規模の190万〜200万人が住む。「人との接し方が非常におおらかで優しい」と言う。今年には北海道からブラジルに移住して100年の節目の年で、8月にはサンパウロで記念式典が行われる。「ブラジルは『遠くて近い国』。日系人は日本を応援しようとする気持ち強い。2度の赴任経験を生かして北海道とブラジルの橋渡し役になりたい」

大学卒業以来30年ぶりの北海道暮らしは、家族を川崎市に残し札幌市内での単身赴任。特技はスキー。「北海道の食べ物は何でもおいしい」と笑顔を見せた。54歳。(関口裕士)